

「2012 北京国際旅遊博覧会」に出展しました！

北京事務所

2012 年 6 月 15 日～17 日、北京市において開催された「2012 北京国際旅遊博覧会 (BITE2012)」に出展しました。世界から 80 の国・地域及び中国各地の観光機構・旅行社などが出展し、来場者は 14 万人にのぼりました。当事務所は、ジャパンパビリオン内に「日本各地展」として、希望のあった岐阜県、山梨県、兵庫県、佐賀県と共同で出展し、中国の旅行者や市民に対して日本各地の観光 PR を行いました。この博覧会は北京市旅遊局の主催で毎年開催されており、当事務所の参加は今年で 7 回目となります。

今回の博覧会では、共同出展自治体と日本全国の希望する自治体等から送付された 1 万部を超えるパンフレットを配布いたしました。



《来場者で賑わうクリアブース前》

■ 北京の旅行業者の動向

当事務所では、博覧会場においてアンケート調査を実施し、来場された 40 名の旅行関係者、200 名の一般来場者の方にご協力をいただきました。その中で『日本で知っている都道府県はどこですか？』という問いに対し、97%以上の方が「北海道」と回答されました。これは、北海道を舞台とした映画が中国において上映されたことにより知名度 UP に繋がったようです。次いで、「東京」、「大阪」、「沖縄」、「福島」の順となっています。

中国人の訪日観光というと、これまでは、大型バスに乗って秋葉原や銀座の免税店やマーケットに押し寄せ、銀聯カードで大量の買い物をする、というイメージが定着していました。ところが最近では、個人旅行を好む中国人観光客が増えており、日本の自然や文化に興味を持つ中国人が増え、日本人と中国人の接点が増えます。多様化しており、それによって相互理解が深まっているのではないかと感じます。

■ まとめ

各自治体ともそれぞれ戦略をもって中国国内で観光 PR 活動等を行っていますが、大都市に比べ、地方都市にとっては、いかに外国人観光客を呼び込むか非常に頭を悩ませると



《ミス沖縄による観光 PR を行う沖縄県ブース》

ころであり、単独での活動には限界があります。やはり、観光分野においては、広域視点での戦略や物産 PR など観光部局以外との連携が今後益々重要となってくると同時に、観光客のニーズをしっかりと掴むことがカギとなるのではないのでしょうか。また、地方都市に観光客を呼び込むためには、知名度が重要であることも実感しました。私達日本人が中国への旅行を考えた場合、中国の地方都市名を言われてもピンときません。北京、上海、天津、大連といった知名度のある都市くらいしか思い浮かばないことでしょう。そして、多くの方がまず有名な都市を訪れ、次に機会をつくり地方都市へと旅行したいと思うのが一般的な心情ではないでしょうか。

今後、ますます日本各地の PR を積極的に行い、訪日旅行者数の増加につなげる努力が必要になると思われます。当事務所では今後も中国各地で開催される旅遊博覧会等に出展して、日本の自治体の観光や物産等の PR を実施することにより、自治体の PR 活動をサポートしていきます。

また、今回の博覧会出展にあたり、当事務所にパンフレット等を提供いただいた自治体のみなさまには、この場を借りて感謝申し上げます。

(広瀬所長補佐 島根県松江市派遣)

